

研究主題

「学ぶ」から「探す」へー中・高6カ年の学びの地図ー（第2年次）

（副題）「〇〇」的『探究』とは：各教科からの提言

研 究 部

本校（高等学校）は、平成 年度から （スーパーサイエンスハイスクール）の第4期目の指定を受け、「社会に開かれた科学技術を先導する人材育成の起点となる科学教育カリキュラム」の研究開発を進めている。研究開発に伴い、学校設定教科「 （探す）」を新設し、3年間で計9の学校設定科目を実施している。「 」の中核をなすのは、全生徒が主体的・自律的に取り組む「課題研究」である。1年生から研究テーマの設定に取り組み、2年生から （ ）コース1クラスと （ ）コース4クラスに分かれて、研究活動を進める。そして、3年生では研究論文を作成する。 コースは高度な自然科学の科学研究、 コースは人文科学や社会科学を含めた多様な分野での科学研究という違いはあるが、それぞれの取組を通じて、生徒が「様々な事象に関心を持ち、困難と思われる問題に対しても高い洞察力をもって、それらのより良い解決に向けて主体的に粘り強く取り組み、自他の取り組みを批判的に評価・改善して、意思決定を行うことができる。」（「 」のマザールーブリックより抜粋）ようになることを目指している。この「課題研究」が、本校において「探す（＝探究する）」ことを具現化する場の一つとなっている。

では、生徒は「探す」対象とどのように向き合い、「探す」過程をどのように重ねていくのか。それは、彼らが「何を知っているか、何ができるか」（知識・技能）、「知っていること、できることをどう使うか」（思考力、判断力、表現力等）、「どのように対象世界と関わるのか」（主体的に学習に取り組む態度）にかかっているのではないだろうか。つまり、どのように「探す」かは、どれだけ深く「学ぶ」ことができたかに依拠しているのである。したがって、我々教員に求められるのは「深い教材研究」により、各教科の文脈において「学ぶ」ことと「探す」ことのつながり・循環を示すことである。

以上のことから、本校では昨年度からの研究主題

いる を『学ぶすこ上ご あ □だ □ 研度 脈うか だ っ
ぶ』こがです」こではいだ対
はこでお よ対が

FACTOR	

FACTOR	

FACTOR	

FACTOR	

FACTOR	

FACTOR	
	1
	3
	2 3 2 3
	3 2